

小精廬日誌

昭和八年三月以降

特別

14

1919

615

35

40

45

50



小栲廬日記

昭和八年三月以降



三月

一日

時、朝未、健忘を著す。入洋達を以て醫  
 家先哲追慕會(三月四日)の長歩内利  
 二、庄司淡舟、末、簡、秋海、山陽、福の  
 題、署を嘱し、末、中、洋、家、一、身、上、の、件、の、つ、き、  
 未、接、福、島、甲、子、三、二、日、を、俣、り、出、館、柳、子、末、回、不、復



より由かへる事ありし事、岡に乘りて世の迷途を  
後ら

二日

晴武田尾まき手福、森林勝美樹庭と到る、故上弘  
菰と注射を多く、勢ありたりの如く、北田  
正平、手功、家原の毛織と就て云々す、和田  
英松、松原、岡、など、も未出、龜山、書下、文  
魁の記、波山、山梨、福川の没、多、持福と持冬  
克洋、義則、古刊書目と定りせらる、以て

積原義

書と見す、庄司淡の、答、おねと集す、  
う、供、い、敷、集、り、た、に、物、と、持、し、と、ゆ、く、午  
前二時三十分強、震あり、長し、但し、被、害、を、多、し

三日

晴、今朝、活、雪、の、勢、外、に、夜、未、の、地、震、を、禱、教  
して、云、く、岩、手、跡、下、の、被、害、甚、大、く、と、釜、石、の、大、海  
浦、起、り、一、千、二、百、戸、を、流、し、火、災、も、七、院、に、三、百、戸  
を、焚、く、木、林、五、十、秋、田、宮、城、が、廿、年、振、り、の、大、地、震、  
也、と、震、源、は、金、草、山、沖、ろ、ろ、と、ゆ、く、寺、島、元、を







下山社と云ふ

六〇

時朝未石一石七隨着下十六枚着此施  
誌本草の寄りせんとす也武田尾吉来詞  
庄句淡水に簡す、午後出陣都に別り部  
員全部を令して市に退職の生お換  
抄を為す、余の隠退に對し出陣部を二  
為月の懸る金を多く、但し出陣部の懸  
みより毎年二千八百圓を月割りと多く

榎原製

このこと、定む、三時半の生令のルゲンクセ  
合ありし文の場今の例合と聞き、陸軍歩兵少佐半木將  
兵の海渡と云く、夜に入りお多岐の睡合  
と聞む

七日

此夜雨あり、夕刻霞、雑紙と著す、四時合  
来也、電山車とて、山梨箱川の渡あり、文晶の筑  
波山一物も、梅の候、甲山十一時出陣一二の物を、  
以日本格とて、扱て七時、日本を政使者記を



後、山家、宗家、と鴨井、稚子、到来、カ、本、以、助  
と、其、著、日本、民族、の、世界、的、膨、脹、を、考、へ  
未、之、山口、伝、次、り、の、代、人、に、其、接、来、會、ある

八日

雪、二、寸、許、積、む、を、能、る、降、り、く、と、相、来、旅、程  
を、兼、す、宮、崎、新、三、り、父、の、孫、列、の、早、大、出、版  
部、と、し、法、源、書、に、列、来、宗、家、の、海、外、を、考  
す、宮、崎、の、早、大、と、香、典、の、同、書、送、午、夜、散、策  
丸、巻、を、功、の、を、渡、田、も、清、の、天、正、遣、政、使、節

棟原製

記、を、得、て、ゆ、く、十一、日、あ、田、部、に、移、け、る、書、法、を  
會、の、通、譯、列、の、河、内、到、と、未、書

九日

時、田、村、社、二、り、才、訪、十、時、の、法、印、劍、の、役、是、合、に、臨、む  
高、田、村、法、源、院、退、二、つ、き、住、持、金、丸、香、典、の、二、つ、き、協、議  
決、定、を、奉、歸、せ、る、に、向、ま、を、言、せ、る、を、考、へ、旅、程、を  
兼、す、丹、波、兄、弟、の、旅、田、者、の、つ、き、來、り、知、念  
を、續、け、る



十日

晴、ブツツト山の投稿を校正す。武田展吉に前書  
宛録と兼す。又其投稿に答ふるに原稿を返す  
原井一より来書。午後散策。和生と物を探し  
てゆくと、夜道婦に支社に去るの編者  
員と柳橋の柳光亭に招飲。在布哇木、  
市、新、河、物、入、西、打、行、為、神、田、林、大、中、一、と、五  
月中旬、新、河、物、入、今、創、之、廿、五、週、年、の、記念、會  
といふことつき祝辭を告ぐべきことを依頼  
し、その日、露、我、後、奉、天、と、臨、ん、で、陸、軍、に、念

榛原製

日也夜来降雪

十一日

雨降、此夜来三寸許積り、未雪んず。昨日の陸軍  
紀念日に、皇軍長城石、擴張、長、没、落、堂、苑、物、故  
諸家録を兼す。第七回の原稿と其の報に答の  
す、田中留書と、四姓制のあり、利、の、午後  
安田長次郎を以て書法を今と臨む。先  
物と齋々、其の家の名を以て。



十二日

日

晴、朝未始雨を兼す、由子病氣平、今夕  
又、夜半と云ふ也、六家、一、動、一、難、一、節、と  
、在、八、三、紙、と、先、送、中、一、古、此、代、金、二、十、五、兩  
也、散集、口、を、指、と、別、り、未、廣、之、酒、飲、一、七  
ゆ、一、所、得、税、徴、西、栗、利、之、栗、田、物、と、他、と、兼、云  
旌、法、書、法、字、と、後、又、時、を、移、す、秋、未、又、雪、あり

十三日

雪あり、く、坂上弘花、ゆ、注射を施す、  
日

榎原裁

雪、ぬ、の、東京、市、令、疑、獄、史、を、後、の、廣、井、一  
柿、瀬、向、に、枝、前、午、後、園、書、料、心、理、の、時、を  
移、す、南、部、市、令、中、湖、子、修、大、令、と、未、書、有  
田、半、筆、と、未、前、三十日、志、法、原、に、振、り、了

十四日

晴、風、朝、群、鶴、井、田、之、府、有、栲、原、方、令、  
近、甚、新、滿、海、四、元、物、を、寄、せ、り、と、栲、原  
生、と、宋、葉、三、世、相、後、相、也、と、配、り、  
未、の、出、遊、三、紙、と、第、一、子、十、五、の、お、と、婚



ふ十七日春林舎に今更に其くん為也。故に献  
書大正の疾りどもと未出。有栲深大正に説  
書も投す。石栲記短四りとも此月甲申の日に

十五日

時、坂に献書あり。日十七日の春城舎大入り  
報す。龜山奉三の二十日者。西代栲、栲山  
朱子縁給を一幅預る。村山秋浦來り物  
を賜ふ。栲深と書す。有栲深新茶  
葉成りつき記念品を定りてあり。午後三

栲原製

紙に抄の物も栲の舎に申す。和の書  
一豆本并豆の公版も郵送す。村山秋浦の  
二條の良書幅に題あり。文三未出。

十六日

時、後向栲深と書す。有栲深河圖えれと讀む。村  
山亀一印と未書。

十七日

栲深内栲深亭と未出。栲深。年々あり候し



互き、信古印講教冊成り未の、抄紙を兼す  
新紙教冊を綴し隨筆に收らむき材料を檢  
す、早大を以て復々今に附すべき餘筆書を  
回附し来り、石を造り一稿を能認本州に寄す、昔  
十七日余の延原に開くべき春城今予の家族に病人  
あり故を以て二月迄のし、今日木柵所の常盤  
二州今出座二十人と起、言ふの盛人、予と  
茶半、今更に菓子と領り、席上幹事と予の  
隨筆と春城今更に出候とんとり提議あり  
予之れを説き、今更に果物一紙と贈る

榎原製

十八日

晴、抄紙を兼す、市以熟や浮未梅、散葉文の  
巻、田方と梅、今日本橋、浮兵衛、酒飲、七物  
へ、光を、一七欠吹を、訪り、橋井清、予  
に依頼し、置、朝鮮、王子、比、鼓、碑、の、文  
章、の、謄、本、到、来、

十九日

晴、橋井清、予、の、海、を、を、な、す、以、付、坂、爪  
長、夫、遺、子、精、一、予、子、梅、園、大、予、を、兼



書、余の抱きしめて送るに、聴くあり山子」と云ぬ  
と云ふ文藝春秋刊来、税務署より来書、雜誌  
朕讀す日と云ふ午後出版の二冊を購つて  
。

二十日

昨朝来館紙を讀み、森脇田村来り書  
己方の借入を如書につき流す、毎月余  
と利子のゆゑ二十日差入ること協定  
す、江島桑雄の計刊の文行堂と勘  
定書刊来、所為栗林院故の原入を試

榎原製

験の件につき、功、故来、新築、高橋屋を  
注い丸美、今中と似し、淡谷政、栗の淡谷寺  
を築、してゆつ、頼、丹木桂、まゝと山陽橋  
の北、画を托し来り、栗、物と似し、大改  
平田、穂、衛、と、砂、河、雄、岐、野、笑、と、四、雄、う、病、状、あ  
し、と、電、報、し、来、り、取、ち、く、お、見、命、の、電、報  
も、あ、り、た、り、又、り、返、電、あ、り、二、三、日、の、所、大、切、と  
報、下、来、り、電、報、一、し、し、来、簡

二十一日

春季皇女宴



成砂川、再居元高の會報を蒙る、余の書  
福をぬのり、遊佐、寺坊、味利、来、人と、儼、あり  
さぬ池、と、慨、上げ、學、士、の、仕、末、を、り、ま、り、此、あり  
此、中、北、田、正、平、と、付、少、と、来、り、松、平、頼、壽、伯  
の、復、狀、と、呈、つ、ふ、干、後、江、島、の、朱、山、式、端、々、香  
典、丑、月、路、の、始、生、に、出、て、女、父、の、為、物、を、贈、り、由、来  
旅、終、と、畢、し、初、入、り。

廿二日

成頼、母、木、桂、去、才、森、堅、三、三、間、す、氣、加、尺、林、一、下

榎原製

り、来、出、校、上、弘、花、多、り、注、射、を、施、す、今、井、一、郎、が  
訪、日、本、回、古、物、協、会、を、も、来、書、夫、吹、来、の、邦  
へ、各、試、験、の、件、に、つ、き、夫、吹、男、と、雪、谷、利、の、  
頼、母、木、の、依、託、に、及、り、山、陽、持、恆、の、運、面、に、是  
す、午、後、教、集、夜、に、入、り、降、雪、

廿三日

而、早、稲、田、学、報、の、今、井、一、郎、来、稿、雖、も、文、藝  
春秋、社、の、千、葉、静、一、才、亦、亦、故、人、の、思、出、三  
十、頁、と、古、く、こ、と、を、托、せ、ん、流、す、の、社、と、



昭著の石部十田川末、龜山平三斗振  
午後教果高崎屋を詣り、浅谷の祝言、宴了を  
悔し、春腹かりし衣、一ねを減す。

廿四日

西本林、西本村、折田村社ニ入り、去る所あり、一件、日記  
才、ゆ、経て山田、信、成、朝、末、又、是、春、春  
秋社、依、教、の、筆、行、と、筆、下、大、美、木、を、十  
紙、枚、成、る、小、林、堅、三、と、末、書、後、志、今、本  
二冊、記、本、午後、又、是、書、の、一、稿、十、数、枚、を

筆、成、す。

廿五日

朝、朝、末、又、春、秋、社、依、教、の、稿、を、筆、す。  
大石、理、自、平、中、登、美、又、本、功、一、故、に、献、文、よ  
り、春、城、の、さ、ら、に、け、る、回、宮、の、言、末、を、宮、前、に、ま  
す、午後、小、原、村、を、書、き、板、垣、伯、海、津、子、の  
二、冊、成、る、午後、と、し、降、雨、あり、橋、井、清、五、の  
三、投、の、問、者、史、を、今、の、こと、を、云、々、す、宗、家、と、し  
朝、鮮、視、察、の、日、程、并、に、地、圖、列、末。



廿六日

日

雨、朝未文、霧、春秋、奇、好、志、き、多、好、を、心、り、す、日  
と、多、し、一、稿、十、枚、成、り、奥、山、雪、花、有、り、亦、宇、野、  
宅、真、島、無、二、の、妻、亦、未、也、早、稲、田、中、名、入、深、寺、  
去、手、泥、濁、巾、古、禱、祝、祭、ガ、の、方、州、到、り、文、春、と、春、秋、  
の、子、美、於、一、二、方、州、を、見、り、午、後、始、由、道、遠、来、初、

二十七日

雨、朝、未、氣、ふ、あ、し、執、筆、二、七、の、う、し、世、説、を、付  
め、上、山、松、次、尾、の、舞、踊、陣、列、と、見、地、下、獄、  
の、

横原製

七、高、山、尾、に、到、り、其、公、也、に、入、り、酒、飲、し、七、切、書  
後、外、す、夜、久、し、又、り、夢、を、見、ぬ、七、未、飲、し、快、雨、通、宿、  
池、を、漸、や、く、嘗、み、し、

二十八日

晴、風、吹、口、哉、去、り、月、夜、文、春、と、春、秋、に、投、す、へ、き、原  
稿、を、校、す、校、了、り、二、文、春、と、春、秋、社、に、郵、送、此、稿、四  
十、枚、且、子、美、於、一、二、河、す、尾、山、車、三、三、山、書、代、十  
七、田、拂、松、沼、を、著、す、内、子、を、贈、尾、船、の、文  
底、に、考、り、皇、千、山、借、入、を、文、海、七、一、大



不理田に投筒子と托才、諸樽轍二と使と以つ  
て神嘉坐秘籍志五帳贈之、昨夜ゆめよ  
り才一舟の定納額金三千八百圓証考を抵而  
皇老千圓借入内五百圓納稅并家用とて  
ゆ子に交付する由又りゆを考お代拂入、  
静一と未書

二十九日

昨、諸樽轍次、御出を分ち、昨夜更の味酒が氣  
分勝んが十時散策丸じり一二拍を舞ひ交

榎原製

行中と回考と雖も此より田原の酒飲しては  
へふ、ピアノ浦行ゆ未、以四州の文とて  
心辨して仕、豆しがとふ暇をや、午後傷  
寐、陽と列る、丹兵衛原平出京を報す、

三十日

昨、川上洪二のり、計列る、昔報に投す心き  
十数枚の福成る、長吟翁の校友吉池進  
文鬼の青峰山系十二枚雪塚の書幅を  
携く来り、鑑定を請ふ、村山秋浦、紙本















五日

雨一息初方り、端つて寶花集を讀み且つ抄あり、  
角字大らしき未書、古本座中、妻子外  
ふ、先日付社原英一と訪ふ、十一時散策相  
上、露西並物玩具と贈ひ文の巻と訪ふを  
文晁下給王子福有、給馬歎と贈ふ、坂口献  
夫と未書、城後旗會と味崎一栢利未

六日

晴、楠新恂小玉原取、以宮此三、一、投簡、旗

榎原製

晴、味崎代十田送金、再、以宮此三、一、投簡、  
休、お澄来り、能取と著す、午後五時紅葉  
飯の膳會、海老、ち回、塩、及、酒、色、樽、田、取  
合

七日

晴、朝未印の目錄を記し、すの口を曇り、暇々  
成り、武田尾末、文江、分、之、来、法、文、藝、會、春  
秋、社、と、余、の、字、の、符、の、校、正、を、需、め、来、り、旗  
印、位、子、田、中、回、天、と、未、書、三、時、と、佳



んじ散策北条の酒飲し七ゆつ後居る家印  
古蘭一卷表装成り四月十六日隈門今開  
の通陸列の

八日

成朝未文苑と春秋より来り今金の授符の授  
正樹を一枝して返す官邸三郎と未書家  
花印の日報を必り時を移す出版部減資と  
行へる後果株券改定に付所有株全部同部  
交付内百二十五株出版部、寄贈午後早稲田大

榎原製

号圖書終りに到り書史書令号と迎へ花者  
を同覧す小山武久不在中身物を取らる  
大坂圖書館と善本陳列日報を寄せて自  
ら夜未雨、杉山義雄の訃報

九日

日

雨、劉及恭未梅家花印の目録を修訂使ん  
先を付心散策浅草一報を遊心途中酒飲し  
七ゆつ、井口基成梅未訪物を贈る、丹美協平  
来訪、三子お東伊一、し未出、井口基成妹



受子廻向来りてア、彈奏、醉臥聴せぬを  
感ず、起きて激賞す

十日

雨ぬ朝未家印日報を修む武田尾吉来り初  
上弘花とて注射を受く、或日長古とて未也  
後古山南坊に赴き杉山美雄の告別式に臨み  
賻を賜ふ、報せし回り物を贈ふと、天候候、其  
く天雪と傳へ来り、金津八一とて来り書

榎原製

十一日

時、如賀美平八印の訃到り、十時日活印刷會  
社の重役会に臨み、内崎心三印に訃及りし  
谷口餘一助平海結川来訪、伊勢の東芳  
郎とて物を寄せしむ、日活印刷とて吳須  
未給回鑑一冊到来、平山忠重百重利助と  
り佛日庵公物日報複出云一卷を定りて  
あり、去り四日錫会田免寺に於て開基地  
條時宗の六万五十年の遠忌を終め給ふこと  
紀念し此巻を複製し給ふ也佛日庵



時宗の廟の存する所也。今津二一と来也。和四  
葛吉と来書。津念寺と来書。并吉来

十二日

時宗今津八一三投簡。加賀美平八平死云。竹  
梅状を記す。森服美樹大石地。田中伯之。谷口  
徳輔。平治庄兵衛。平次。谷口。田中伯之。記す。  
宮崎三平。車者。且つ物を貯る。来。今井一平。云  
り来也。日本圖書館。協合。大今の通。藤。列。云  
坂。瓜。結。一。平。月。記。内。子。日。付。云。時。宗。を。記。す。

榎原製

と龍おまを花袋し。帯を焼く。と海兵衛。と改し  
と物く。狂言記を讀み。瓜。葵。人の狂言。案。山  
子を材料し。と面白く。感。は。旋。転。と。全。部  
騰。字。を。夜。来。由。

十三日

時宗瓜。結。一。平。月。記。宮。崎。三。平。一。部。云。と。是。云  
今津八一三と長。前。所。の。十一。時。文。り。む。を  
記。す。と。墨。江。方。時。一。次。回。二。本。と。結。云。八。頃  
七十回。物。結。云。時。宗。を。記。す。印。譜。日。記。の



送漏を補ふ亦旅保を筆す、去原を以て甘菜  
と改り来日

十四日

晴、朝輝龍山亦訪一と来出、因吉段場令  
し来書、浅草墨堤上町を散策、橋本を觀  
日本橋、飯九町へ、三者並み、物を貯り来り、  
和名文三、旅令別在、地内伴、三と令保八一と  
訪いし、林訪一、返書と投す、旅保を筆  
す、夜来日

榎原製

十五日

雨、旅保を筆し七時を初め、赤家宛書畫の追  
補目録を他に出版部へ株券預り証を返却  
す、午後物を整理し終日答す

十六日

日

掛紙濃霧、帝都を録す、後令莊の土地整理  
の爲め文三武呈をやる。既後、下婢令  
刺刺着、龜山書三、頼士、如茶山と曰る  
之、清庵類を持来、購入、價四十五圓也



坂本三郎三回忌の（き）祝儀里川直二武  
り来書紀念修も（うき）と（き）せ（り）申す。田中元  
野伯孫（寅川寅子）死去の（き）人（を）十七生（女）武  
臨す。あし十時出遊。大工を祝き是夜（雷）突  
の際後（女）等（菌）所（の）修理と托す。又刻  
大隈今（館）に（北）き（隈）門（合）し（臨）む。丹三（兄）才  
伯（京）味（崎）漬（を）贈（も）す。花（並）哉（花）弁（の）種子（宛）  
料（を）贈（ふ）。天（三）二（十）四（を）（う）す。大隈（の）平（内）も  
砂（川）の（死）去（を）報（し）未（も）不（言）敢（品）電（を）告（す）  
在（不）足（圓）者（彼）長（段）為（優）心（も）大（今）の（あ）あ（因）状（別）

棟原製

二、今夜田中早大紙去夜の大紙へ向山砂川の葬  
式に臨出為り（う）す。香典と托す

十七日

時、時々引つゝき大工二人来り。能保を等す。  
楠瀬恂も来書と。大隈別邸に種子  
支の病を元ある。腸胃の疾患も（も）素弱  
甚しく憂ふ。へき（幼）子（也）菓子（一）函（持）夫  
十一時書更（り）合（申）す。根津（素）一（り）も（分）を（其）の  
孫（倉）の（古）字（紙）を（見）す。此（古）字（紙）は（田）中（伯）の（孫）也



りて當て一境を任すより若干あり、縁告數百  
よりほくく、延時州の全部裁減し得るを貴  
城とありす、然るに仲依の工レクレヨニあり、地  
又那大龍山石宮庭のいふこと二千年以上の  
よるといふ、西大寺春日若宮四竹の大般若  
并に延喜元年河のいふことなる長  
初と具とをさくす、千の宮の宮をさす  
二時許とて、華族今彼の文の場今活  
況今に歸ち、いふ満洲國を議初井徳  
三出席、今宮の間に勤し、應答二時を

藤原教

こころ、出席者下の生に信す、今伴ハ一  
く未也。

十八日

明、相未能也を養す、村山ゆい助未訪、唯  
庭即席、教幅の画面、感思あり、午後亦旋  
紙を兼て、健ん、後紙揮、毫内子こ  
其の、庭に、軟母木柱を、使を、以つて、情の、體  
定を、求め、其の、手紙と、兼て、持て、來、

十九日



明園丁二人より借出を教正記あり善本影諸祭  
西才三集配本余の故人を修しを採録し今文  
藝春秋五月號掲載村山と十山の切手と將  
り来日、頼母木桂去、前丁、春湯をさしあは  
料取由利来、高橋座合、と是れ考又日を  
同考録場合、とすまふ。

二十日

雨、  
熱河の坊ゆゑと前を將り来り、明園丁二人林、  
林靖一と来考、高橋座合の影湯湯四元

棟原製

物二冊と寄る、山口政次と四陰全歌納  
和菓の白着、パンフレットと將り来り、平山堂  
利由、あゝ雲の書幅三幅持来り、即座三題  
罵、去主目録録合ハム持来り、坂上弘将り  
り江射と受く、山田清正、年稿、各若標本  
集才一輯、新次山田持来り、午後旅記を  
筆す、今評ハ一と松の手入、つと云々、  
前島記念録と、つと、アハム六十三冊、  
般字の附せし、つと、あ、狂言記を讀み、  
本書書画部類の目録を録す。



二十一日

町、園丁二人来り、砂の堆積の遺子忠徳の遺物あり、  
その遺物、杉木甲子と来り、外出口の本筋、物を  
辨じ、源兵衛に領し、又行巻と辨め、ゆくり、丹兵衛  
原平と来り、未出、出取部と、近刊二冊、配本、是  
田来り、人未出、物を取ら、家本、本本、并、諸書  
の分類目録を、他り半口とあり

二十二日

曇、古岡外史死去、今井一平、平後、高馬、魚の

東京

江戸の子を、後、園丁二人来り、銀の、遺物  
あり、同引、出り、所は、粟米、出、取、魚、類、と、送  
り、来り、名、古、倉、の、改、谷、後、底、と、来り、書、午、後、又、兩  
換、物、と、き、り、送、り、降、り、出、す、雷、鳴、り、

二十三日

日

晴、京、都、校、取、合、今、も、瓦、片、手、植、移、建、碑、式、と、花、を  
寄、り、を、あ、り、ま、す、四、香、入、と、来、り、園、丁、二、人、外、に、畑  
打、二、人、来、り、法、的、今、も、天、庫、崩、落、式、果、雨  
利、り、度、冷、市、山、陽、文、徳、殿、建、設、お、災、替、入、り、



先哲遺墨集大本二冊も寄り来り、栗林未  
亡人未活、午後散策、船生に口しや、玩りて、  
七時。

二十四日

晴、五時、旗屋へ物を送り、学報に寄す  
へき、多福を伴う、巻送、園下二人来り、石田  
善信、田村社二、中、舟、午後、旗屋と筆す、四  
時、復、家、今、口人と、あ、田、邸、と、合、す、  
配本、芳、吟、巻、高、田、正、峰、の、信、と、り、  
復、如、志、人、本

標原製

目録

二十五日

晴、散策、丸、善、二、園、者、を、贈、り、高、吟、屋、を、訪、り、  
朝鮮、老、器、物、の、展、覧、会、一、覧、日、合、會、を、飲、  
し、七、時、く、り、文、藝、會、春、秋、社、を、  
訪、り、未、活、の、吹、次、男、秀、邦、石、塚、島、十、年、の、新、  
作、の、雅、波、劇、平、を、  
訪、り、石、塚、保、満、道、徳、を、  
く、二、つ、き、暇、を、  
訪、り、未、活、の、十、日、鏡、別、を、  
夜、来、



雨あり

二十六日

雨粒波引平しと未之直に謝書をか  
す、平次傳を後ち、各古屋の改谷俊八彦  
崎の山崎楠岳、郵便を交す、五十島旗也よ  
り紫燕、葛胡麻等を贈り来り、龍泉を筆す  
所乃為井忠をりし、叔母といふ、病死を報し来  
り、萩原英一と酒を贈りし。

萩原製

二十七日

未長節

晴、朝来り、平次傳を後ち、日石今比と  
本季配高六十、白飲物、若持、辰理、池、未  
書、日本書史、今と、五月七日、是、利、之、校  
存、若、米、観、つ、き、未、書、午、後、市、傳、人、心、散  
菓、淡、茶、と、お、人、心、ゆ、く、萩、原、英、一、と、酒、を  
と、あ、り、高、橋、松、四、中、と、枝、尚、新、石、の  
領、奉、平、し、と、魚、類、の、味、増、減、を、送、り、来  
り、丸、美、と、天、正、使、節、海、歌、三、百、五、十、年、紀、念、  
展、覽、寺、目、附、録、を、贈、り、来、り、揮、毫、全、権、均



朔

二十八日

判を墨天終、降向、東山素三、古画代残金二十  
田抄湯、雜紙と筆す、海邊或次郎、白  
家の浮論と載せたる中央公論といふも来る、  
舟りをも預ける因引出す、午後驟雨志きり  
し、刈り、早稲田中、又、校し、未書、亦款目、其  
の云、梅す

標原製

二十九日

天長年

時、朝来、旅宿と著す、侍へて出遊、給生と物  
贈ひ、資生堂と飲し、切へ、酒之式、次郎の大  
久保公と精力政治と讀思、彼者平、其、田中  
伯長、壽祝、賀、人、も、も、御、信、建、波、の、記、録、と、い、ふ、を、来  
る、市、後、不、も、昭、和、八、年、月、街、路、舗、装、甚、多、く、其、格、  
を、主、と、し、て、廿、五、日、廿、七、日、の、微、雨、不、利、の、此、の  
微、雨、ハ、こ、ん、が、始、め、也

三十日

日







多士十少留収獲朱々へき其方、日本圖書院協  
会より割引乗車賃日つき未書、改上以爲よ  
り注射を受て、平中登美夫此用り未書  
雅法と翻漢時を移す、在大連海南宇門の北  
列、

三日

兩風、武田尾吉子、日本圖書院協、平中登  
美夫、同書、飯川上洋一、才、未書、土田秀  
大、中、二、投筒、前日、川つき家什の目録を

心、石田善作、未書、酒造、中流、即、一、五  
七、七、田下文法、の、新、利、の、旅、相、を、業、し、し  
時、を、移、す、晚、食、後、永、也、保、未、新、日、利、り、文、の、  
揚、合、の、特、種、種、漢、合、も、つ、あ、く、く、庶、民、金、融、を  
遊、り、し、建、田、英、雄、(大、倉、次、守、進)、大、久、保、俊、次、(銀  
行、島、長)、井、川、忠、雄、(大、倉、揆、堂、君)、久、曾、恒、太、  
関、行、雄、(無、夫、但、合、殿、間)、の、古、席、を、移、す、其、の  
辨、漢、も、つ、く、今日、停、聴、三、百、八、の、多、き、及、ぶ、其、烈  
凡、早、大、運、動、場、の、場、屋、を、新、死、す

四日



晴、朝来強風を憂ふ。和田純来訪、午後四下  
文治の朱列式二冊を珠環閣に一二の圖書を贈りて  
ゆ、亦強風を憂ふ。文三来、先月分二十四  
給す、春陽中を来、月朔の原好に就て来尚、寺  
門静寂の江頭万柳を讀む、才一語のこゝ定約款  
を動眼満つことを報へ来、名士名人のこゝを  
和田来、こゝ未也、石塚三郎、来訪、石の船  
也を贈り。

五日

棟原製

晴、宇尾介遊、未也、和田来、巻、龍舟を  
来す、武田尾吉来、出版部、二萬圓余  
に到り、陰退、原金、酒者、飲、江島  
条、婚遺族、相を定むるあり、宇尾介、巻  
か、道山来、三のため、三條、書物、の運、書、書、豊  
回、公、保、陰、の、満、つ、き、更、く、契、約、一、畢、つ、  
散、来、日、本、橋、酒、飲、し、新、名、に、列、り、切、玉、九、枚  
電、氣、軌、道、の、北、の、印、刷、物、を、余、の、池、子  
山、湯、の、材、料、と、持、取、り、し、て、湯、を、  
川、を、宇、尾、来、二、名、士、名、士、同、考、給、つ、と、也



晴、文行巻と訪ふ、幼室の由、五十四拂入、午後理  
髪、和田翁をよこし、二時半、帝回大、二回  
出、彼、同方陣列を板さ、そ、凡、多、紅、糸、緒、と、例  
川、陸、合、と、臨、む、高、田、中、壇、原、御、座、と、合、す

晴、大掃除を行ふ、土田秀大、今、と、五、十、巻  
米、の、奉、印、代、五、丁、の、四、十、巻、を、郵、送、し、来、る、  
款、兼、舟、士、の、回、方、市、一、と、観、舟、並、の、候、し、と、仰、く

模原製

、新、正、海、崎、士、の、内、祝、外、望、を、談、ふ、相、撲、の、群、  
入、り、以、校、友、定、置、山、島、次、と、来、色、且、番、附、と、  
来、る、牡丹、花、夜、と、花、花、漸、や、茂、し、室、内、  
三、个、身、物、を、贈、る、

晴、龍、保、を、巻、下、す、土、田、秀、大、今、今、井、一、中、と、  
書、札、を、送、す、尚、存、次、と、  
成、辰、歌、後、と、寄、を、あ、る、間、に、兼、し、と、新、正、  
后、の、内、祝、外、望、を、談、ふ、午、後、帝、回、回、方、



彼に付き同歩協会の理事今と臨む各古巻  
回を録し來電第一号り、預入金の預金  
引渡に付き一千八百圓一先引出す、  
宗家も十四の巻の今の巻内列す、歎月巻古  
く未書、定期預金利率七十五圓二十幾  
銀収

九日

昨朝未だ預金を集む、森脇來り大隈別館  
夫人四五の未集金もも表紙を呈す」と報告

横原製

十時日清印刷会社、重役今と協あり、三秀社  
の記念出版として、國寶白山本神皇正  
統記復刻を四冊を贈り來り、吉田福平  
の序の巻、黄紙の中、二巻の二巻を載  
せ、所定女子圖文と云ふ也來り、午後八  
出物を贈ふてゆき、又、東京日本の寺澤榮一  
余、人物傳を書かんとす、其の流しと云ふ  
坪の所載を、新刊の記行と云ふ也來り、松  
平、秋葉伯も十九の中、武芸志傳、松平  
の為、新巻録、其の、深夜あり







晴今朝早く目さむ室内暗く四圍閑寂光と  
して深窓に似たり、往々驛向の如き形と多し  
庭柳の風、静んて寂くの意也時、六を換  
へん既七時、道近し即ち起床、柳を  
背を曳て庭園を歩す、庭園一名四干坪、自  
然の風趣あり、室に度つて獨坐、侍を閑寂と  
味ひ大いに喜ぶ、是より九時、詠詩と出で公令堂  
に到り、令圓田寺後の大令に臨出十時、式を  
奉行勤、續二十五年の儀、更二十四名の志  
願式も奉行、此日令まう、こよ二万三千、野名既

棟原製

往々母をいませ、今より午後和田某々と公園を  
散策、加藤有田伯の銅像を拜す、此公園は  
東京の目比谷公園とて、規模大く、花も多し  
未だ樹木生長せず、も数年を待たば一層美  
観も望むべし、亦之園書館とあり、真福寺とて  
借り来り、今園寺の法別をえり、法別中四寶  
七八點あり、予往々真福寺を訪ふ、其の形を  
例説せし時、圓寶皆あるに在りて一點も見えず  
へたり、今次ハ、予て例説を得て、眼福也と云  
し、和田と共に自動車を起り、執田に到り宮



を拜す。昨今本社改築ハ以テ神室ハ儀殿ニ遷  
座シテ、神座ニ入り寶玉を見テ福也と云ク  
古鈔本圓鏡又日本書記の卷子七點目見と得ル  
リ、河路大沙ニ立寄リ其福寺の寶生院ニ就  
テ書庫を一読シ、圖書傳ニ戻リ、白人と施座  
ニ時を待テ、六時名士市長大石而夫の  
招待ニ赴キ、公今世の富貴令と臨志、九時辭  
して八膳館ニ归リ、偶ニ講堂ニ數人の客あり  
字の正々、甜くも法歌の初、喧し余も亦小  
酌、隣客の去リを待テも寝ニ就ク

十二日

時、六時半起床入浴、朝飯後法書の十時自部  
車を働ク、名古居城ニ到リ此城是古十五年  
徳川家康征伐ノ余一七二築造セシヨリ日本  
三名城の一と稱セリ、此城廿六年部官とテリ、此  
日天子志でテ行幸あり、昭和五年名古居ニ下  
賜テ、天守閣御殿櫓の木の建造あり、此曲  
竈也、城門をテ、偶々北島京都路中伊達神  
戶館長ニ会シ、其ノ先づ御殿をテ、御  
殿の表をテ、對面路、上浴殿、里木書院



柳の河、孔在の間寄あり、上洛殿の階下御位幸  
の際、瑞彦存本と云ふ比所ひ、各家皆名畫を以て飾  
ん、金碧燦爛、目も眩す、堂の二條城より比すんへ、  
保存行き届き、畫と破損を認めざるの喜ぶべし  
藏と云ふん各心入り仔細に畫を評視し得さ  
りしこと也、狩野派の画多き寸、探画の信心  
殊に多きを認めざる、上洛殿の欄干の彫刻の  
如き、豪華華一驚くべきものあり、一説は、天守  
閣を乞ふ、いんか加藤清正が築造し、と傳く  
く、このものも高きところ四十尺、頂上に金の鏡が

棟原製

左衣に飾り付けとあり、此方々あるのが、雄南方  
の雌、高さ八尺三寸、この、伏田の黄金の慶長  
小判一葉七千九百七十五兩と傳く、と云ふ、櫓  
ハ五層、その拵也、と云ふ、城内御座を極め、且つ  
その、風流あり、此島か一人と自動車と共なり  
徳川園を訪りて、其の列をと観る、此邸宅を  
もと徳川家、老の家なり、と後、義親、長  
一時任ん、今、財園法入と云ふ、列品の内、その貴重  
の、同書多し、駿河、遠平あり、清和、義直、長  
遠、迹の本あり、外に、数點の寶器、其ハ皆、華



記のしるしを殊に目も驚かす。観光のつて  
公令を二年に於て、更に公国内の宇天數國  
を以て、北建の築、の次四十三年、関西府を  
聯合共進令書らば、彼を以て没せしむるを  
關上の關を以て作也。此の關の附して松月高  
猿面茶席の二個の建を以てあり、松月高  
高き齊在公の書、當りて建、築人徳川某の  
の造持し給せり。又猿面茶席ハ、關の行  
長の清須城に在りし時、古田側部の法持し  
以てあり、是を去十五年、名古居城内に移せり。

標原製

るよの今の御持し七松月高とせしむるに  
在り、公國の二程の光彩を並つるよの、此の  
史的な建也。三時、行往、佐きん、松  
如きの招待、寛國、殿、今、臨み、畢つて、改谷  
館、去、松、え、と、御、納、居、(新、重、立、下)、二、五、二、日  
人と、れ、こ、行、き、高、飲、飲、を、お、り、十、時、已、終、會  
こ、つ、り、以、て、

十三〇

時、分、刊、存、評、の、氣、味、あ、り、麦、酒、を、飲、む、お、の、是、を



東武のつとむる地図をかり、赤坂を覗く。彼主  
の寓に宿し、知ると共に書、函帳に揮、其十一時  
に今年に別り、今次の会、以後接を絶つて、今  
多市去り、他文部出此、其書を扱き、午後今  
をいく、余今日午後、東京二時、其分の汽車  
に、この東京の縁を、一急行、春、其切の為  
め、此を、夜十一時、二十分の汽車、乗、都  
合、とう、う、あ、今日、日、の、ブ、ロ、グ、ラ、ム、に、あ、る、日  
本、ラ、ン、ク、の、河、を、割、き、せん、去、る、し、が、花、行、の  
都、人、と、う、う、な、ま、因、り、一、行、に、か、ら、う、こ、こ、と、い、う、う、

二時、森とれと、若し、その、舟、お、を、試、む、大、山、行  
ハ、前、年、既、に、一、回、任、了、を、以、つ、て、其、の、詳、細、ハ、略  
す、七、時、旅、舎、と、ゆ、り、山、中、植、と、迎、へ、て、晚、酌  
を、試、み、十、一、時、二十、分、名、古、屋、と、名、由、途、に、終、く、  
俣、東、橋、に、和、田、の、久、野、良、伊、藤、廣、三、の、輪、旋  
を、受、く、山、中、植、と、支、那、の、緑、茶、を、贈、ら、る、  
大、衆、回、考、飯、く、破、貨、功、名、の、烟、具、ハ、鉢、鉢、と、  
リ、八、琴、味、の、茶、器、を、贈、ら、る、



昨七時迄と云々着立二切長不在中四深田  
畝の役人より人形の人保田信四より来り、中村春  
也より折田義久より来り二三日のパンフレットを寄  
せり、早稲田中谷より後井決昇の毛紙  
利来、早稲田新具六割壇田新春座具六の割  
のあちの利入清の今よりパンフレット二冊列  
来、先づ肥田野井鳩先生碑外柵修記並進  
牌今州修につき寄附を寄り人より要求し  
来り、色紙十枚揮毫石田善作の臨し  
在り、任地清洲、清洲、石保保の書状列

日午後大隈別邸に到り病入人の状を問ふ  
危篤に瀕し病入より二三日平静ならうと云ふ  
去つて母下谷の文の巻を泊めて三十  
日入る、振本を購ふ、三時北河宗家の  
茶話会に臨み夕刊物也

十五日

昨、巻山書三より書状三十四封、改名後世に  
込を考へず、形を考へず、改上取巻し  
例の注釈を乞ふ、言わぬ辰印、此の口を考へ







贈うとある、森島久とて、鳴の若芽と定めて其  
又善本影漢中四転配本、新刊海内龍図  
とて、鯉魚の塩漬を贈り、未の閑を得て、二載  
六月、葬の稿を終ふ、丹其兄才未の、晩迄、  
復別邸に到る、鮫子刀自十一時三十五分迄、  
逝く享年七十一、二十一日告終、式と決す、死  
顔と稱し、七二時、恟毛、夜耳、雨

十八日

晴、今朝八時起床、三村休活とて、桑山子に就

津波、東湯の芸攢録の板書を、定めて、早の  
垣内吉とて、熱海とて、出京、早泊、日傳、別邸  
に到り、十一時一先の恟毛、下村、心大、早、  
訪、名士、念の八膳、飯とて、浴衣、地二反と、定めて  
未の、扇、十枚、書物、展望、紙と、定めて、  
三時とて、高浪、別邸に到る、八時入、推、早、  
十一時、早、法、同人と、定めて、早、  
の書、向、日、行、早、文とて、三時、中、海、の、早、  
定めて、未の、



十九日

時、朝来、原稿を校行して早稲田に報授  
す。原稿向より中々武を信じて、就て来法  
廿六日、活生命保険会社より活印印刷主没  
死多岐に現る。改谷俊心より来簡三村清三  
郎、森重夫人、海老と夏す、大隈家より廿一日  
葬儀の次第書到来、三千円を助成金に預く  
べく、内子に交付凡、四方田より助成金とするべく  
内子交付書、物屋印社より苗原昌三に余の私  
書印を祝三四と贈る。今夜、杉平、頼壽伯と祝す

櫻原製

(三十一) (三十二)

九段、多岐に高田大橋(杉原) 遠向と叙か  
合して中々武を信、海老の打合をさす

二十日

時、朝来、定業のをも死に投ふべき原稿を呈  
出す。久保作のりし人形(杉原) 杉原の  
今に就て三三、自身の人形を贈る、女子大  
学の家庭内、板記を杉原の書す、大隈  
子夫人の平生、就て活法を承ふ、乃ち一  
端を評つて書す、杉原、日村在二、杉



是迄紙十枚交付午後大隈列邸も又二紙の  
内も後亦原行を乞ふ、夜来風冷

二十一日

日

晴風朝来定量の日本二宮よりきるおを兼  
八時三十分大隈列邸に控ける世子夫人の告  
別祭に臨み引續き一般吊客の先外式あり  
委員として吊客を送迎、午後一時出棺に隨  
伴して獲回寺墓地に到り埋棺に二時を  
と費し埋葬并祭を畢つる、埋毛時三時

様原製

外此中、下村正太郎、可助、江原の字と紙  
を贈る、高野お島こゝろ、未也、昭台、大槻古  
壽、木村、北河、新吹、中、公、公、と、可助、山、湯、方  
巻の艘を來り、香更、廿七日、宋、改、傳  
列へき來也

二十二日

雨朝来原行、午前十時出、淑光を伴ふ、三、級  
、数、多、の、物、を、好、い、中、美、と、飲、し、と、切、る、美、本  
、新、語、弟、五、輯、配、本、楠、瀬、日、甲、と、し、來、簡



二十三日

晴、下村正太郎、大槻古壽、簡寺、田中光  
顯伯と西山宗因若飛鳥川後志惟母列條  
紫本并二不宮豊陵の解説法字本を山崎  
三右衛門大須真福寺文庫(再建)のきり  
安江の好部より遠江柳田氏より河津より  
人ことを流転し来た、午後文行巻を流し草  
木性漢を題し三十日入る、人を働かす庭樹の黄  
葉を拂ふ、旋風を巻く。

二十四日

晴、於法本州のたる栗林舟湖の八廿方及び  
宮として寄す、遠江の久前、又下宮登美天  
才流、故上流、注射を交く、金子之臣  
より未寺具の余小徳草の文と探訪し、中寺  
回、後本と好く、田中光顯伯の海者を  
十、善福寺文庫(再建)今、長に河津より流  
転を流す、方、寺を、旋風を巻く、女  
子大寺、成瀬、花の銅像、三河、未、歌、目  
善吉の郵、出、来、り、



二十五日

晴朝未定葉之本社の囀るに、原十教板を業  
心す、大概古書より原十教一式取り来り、午後  
華祝に供人が三板を預け、尚古高早川の古書に  
其の展覧人をも見てゆく、日本圖書協会の  
り来り、又原十教板

二十六日

晴朝未定原稿を整理す、九時護国寺に到り、世子  
夫人の十日祭に臨む、墓前祭終つて更に到り、

榎原製

祭典あり、十一時迄、原十教板三篇を増田義  
一に交付、午後又原稿を必す、原十教板より、  
今迄の生念保、原十教板に、原十教板の印刷  
刀十七名、紅、黄、白に、原十教板

二十七日

晴、山の原十教板より、復た原十教板に、配本、村山祐清  
の原十教板の書幅を、原十教板より、原十教板  
より、原十教板の原十教板に、原十教板の原十教板  
宋本を、原十教板の原十教板に、原十教板の原十教板



今の理中令に臨む、大橋兼漢士と振政徳川  
家、勲功、敗訴の次第を聴く、丑時迄、きあ  
田養次郎に、振元宋本海列、其力者と其の  
ち山の辰好亭に、吟上参り、書出認り、今  
宋本書影の影を多く、

二十八日

日

所、余の大隈世子法を収録の女子大家、延用被  
到達、亦冬、尋言、當に、松ける余と、叔め、多、物  
長印到達、長河、叙、絶也の宋改の法、を、誤、む、  
出、淑、丸、養の、河、内、文、献の、海、列を、見、る、書、兵、術

と、録し、村口、考、存、ら、む、相、如、亭、行、重、二、程、を、題  
の、價、五、十、五、圓、也、久、吹、着、三、妻、來、り、今、時、八、一  
と、未、書、能、ぬ、を、答、り、又、刻、こ、む、

二十九日

時、字、尾、漢、丁、外、は、睡、り、上、得、規、矩、也、才、来、訪、供、存、言  
目、と、贈、ら、む、十一、時、お、推、り、て、銀、生、の、中、島、に、飲  
び、別、れ、北、川、幅、亭、ら、む、し、今、書、及、可、茂、雄、を、  
古、書、目、と、定、り、せ、り、あ、つ、同、考、彼、協、合、と、未  
書、原、俊、芳、外、訪、氣、木、十、畝、と、未、書



三十日

晴、久保休四郎の寓に應じ其の遷厝賀金の祝文を乞ふ、石田美佳とて母方の家より先代母田長法要の菓子列来、森脇美佳とて法要の菓子とて母方家より列来、出段印より余の著書印税百四十圓半、二式大領收、数葉文の巻とゆゑ、椿岳書、羅維漢帖を購ふ、價六十圓也、拂の月二十四日、今年後、浮田村山秋浦の寓に應じ、其の宛、源河の詩帖を題、運、母内、運、送、二、間、す、ま、ま、二十、山、去、る、程、の

標原製

夫の者、虎刊子、森脇に交付、

三十一日

晴、一文を、玩具、河久保休四郎、に、寄、り、大、洋、紙、製、箱、也、と、未、去、植、市、局、松、の、手、入、未、去、和、田、純、の、所、以、り、と、前、川、益、三、山、陽、の、書、物、を、携、り、来、り、鑑、定、を、請、ふ、白、洋、紙、と、未、去、月、十、日、久、保、休、四、郎、に、寄、り、唐、の、賀、金、二、つ、ま、ま、と、出、浴、物、を、贈、り、丸、美、格、と、三、年、時、と、情、と、あ、同、共、満、生、命、倍、長、分、祀、と、祝、由、金、二、十、圓、八、十、美、領、收、年、後、再、い、出、



此文の巻に施をて接ひ三十四冊入山田古位  
り来也、

〇六月

一日

此、植木親二人来り、施法印之出をて投符を求  
め来り、連日雨り、池水亦乾く、阪口献を来り、  
香并葉子を齋ぐ、先を山の家へ去り、先代  
十七回忌迄一物も送れ也、作長信知り、香也

榎原製

を賜り来り、午後先を付せ給ひ、物も賜ふ  
とゆくり、出取部より、通利二種配本、向日後に  
時を移す、楠瀬物より来り、

二日

此、以、御社の施法印之出以一稿を投す、  
植木屋引つ、き、二人来り、香報の法家紙  
を一枚、七印刷玉、郵送、深田和氏に投  
前、福官書、欠吹、未及、邦より来書、新得、飯茶  
平より、千々、一函、利来、改上、弘、為り、江、射、



八、叔果亦出後田原屋ニテ、  
讀書後、  
晩細

三日

晴、浮田和氏「  
七枚筆、  
を精山、  
お三、  
と、  
郵送、

榎原裁

亡父葬儀の香奠通し、  
物と貯り、  
未、

四日

日

晴、朝未、  
春、  
書、  
東京朝、

五日

晴、朝未、  
田中、



十時成りて、千々を定むる。時を以つて、  
柳の千入由園下来り、楠瀬向旗屋行子  
に投筒系、白由三印、し、弟ヶ崎別長、松行  
あま内利、上、中、下、同者、松ヶ崎、同者  
銀塚守の記、今、時、徳川家、おぼし、折、折、  
件、と、柳、柳、千、千、千、千、千、千、千、千、  
て、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
盟、盟、盟、盟、盟、盟、盟、盟、盟、盟、  
院、院、院、院、院、院、院、院、院、院、

標原製

六日

時、朝来、旗屋を著す、増田義一、ら、未、未、未、未、  
答、答、答、答、答、答、答、答、答、答、  
本、本、本、本、本、本、本、本、本、本、  
の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、  
印、印、印、印、印、印、印、印、印、印、  
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
出、出、出、出、出、出、出、出、出、出、

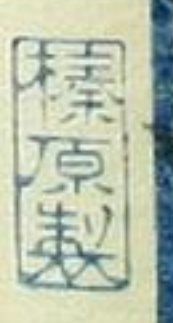
七日



雨、文の重と功の二二字を婚か、物生非あ、  
酒飲し、坊々中、香を婚心、喜吟く、さる、古託、  
全、書道、心、お、と、来、お、和、書、局、主、服、部、  
次、り、森、潤、三、印、の、海、を、物、一、と、来、功、入、洋、  
有、見、の、官、在、地、業、七、讀、の、定、業、し、日、本、  
投、簡、和、あ、さ、さ、一、衣、部、を、送、る、

八日

晴、東京朝、の、風、部、の、囀、を、度、し、徳、市、蘇、吟、の、  
地、業、者、者、五、十、年、の、批、評、を、思、  
木、林、潤、三、印、



の、近、著、の、山、文、庫、と、書、物、を、行、の、標、題、押、  
毫、春、泥、堂、と、名、好、料、十、田、利、未、丹、三、原、平、  
と、来、書、甚、漫、重、極、方、と、喉、で、ん、因、ぶ、下、駄、  
の、表、三、枚、貯、り、未、の、因、丁、又、来、り、芝、州、を、載、  
内、午、後、取、集、始、は、こ、物、と、贈、り、し、ゆ、へ、

九日

晴、朝、来、本、州、に、投、ま、さ、き、寄、物、を、奉、り、六、枚、氏、の、十、  
時、は、印、刷、の、重、役、令、に、歸、お、旗、の、加、み、の、遺、子、  
信、子、来、功、送、り、寄、林、羊、一、次、男、正、一、來、功、改、谷、



侯也本迄府税市税納付(六十四圓)午後  
五原形と兼し五枚成り、園丁一人来り、晚  
間井口基成来り、可酌

十日

晴朝来本州、投すへき原形を心リ余り  
守り形と收り、美業之日本列達、書物  
長史社と余の者、富庭園がを撮影也  
二枚美の守り、と貯り来り、日本田舎  
協会が来り、午後女田某等、郊外利

横原製

り書花子令に臨み、同考、撰す、用紙也  
協撰す、定書本日本社と、謝金五十圓、貯り来

十一日

日

晴、今朝九時三十五分の山田原急り、も茅ヶ崎  
の沼田如氏女婚原あり、中、招へん、其の原案  
の別荘を訪み、高田中徳後と同行、熱海と  
り、坪内来り、今更、沼田七某、茅ヶ崎、原  
に原形、自郵車と、駆り、其の別荘に、利







武家の法をあり大なるし、四つ人を交う、更々  
その中隊長のありゆくと建築中の武造館を  
見る、才一日所集術才二階剣道上階多道  
各り二万の器ををかく大なる目さき、又テレウ  
井ジヨンの研究室を又七ゆ、ゆ念九表  
ニ到り録し、古時屋をその内ふこ、今、美術  
を録してせ、ゆ、今津ハ、古巻集  
る板と寄て来る、今津、井村山、ゆ、他、扱  
間、初、表、古、二、間、一、狂、言、記、爪、空  
を、書、せん、こと、を、書、す、年、十、區、旗、ゆ、扱、と

標原製

物、和、の、文、三、日、先、月、廿、四、日、訪、す、今、津、ハ、一、  
り、今、良、大、術、の、書、ゆ、ゆ、一、本、を、贈、る、言、を  
報、下、来、る、九州、電、氣、軌、道、今、社、の、巨、冊、渡  
軒、尾、美、術、集、成、回、録、と、寄、り、て、ある、此、の、回  
録、中、山、陽、の、書、跡、に、多く、其、の、解、説、と、し、て  
予、が、池、澤、山、陽、の、記、事、を、多く、引、用、し、あり  
夜、来、雨

十四日

夜、朝、来、強、風、を、著、す、小、人、江、其、一、村、山、秋、浦



今井一節文に身証、頼母木桂玄と、秋山  
湯詠史の身証、平度と、おろし又み余の著  
定を河山、真蹟の由を、雪法と、報也、  
今津ハ一の近若、法隆寺法起寺法輪寺  
建二年代の確立の二冊刊来、平度文の巻  
を治少と二三の回考を得て、抄り、亦、旅秋を  
筆す、浮田和氏と来向、夜来向

十五日

兩、浮田和氏、今津ハ一、投問、雜紙を筆

標原製

す、散葉紙付、抄を、猶ハ、非、美、に、似、り、石、塚、史  
有、今、津、の、三、大、寺、建、立、年、代、考、を、撰、ぶ、和  
文、三、卷、の、書、物、の、装、釘、を、託、す、

十六日

和、相、未、之、の、協、合、の、旅、歴、に、招、く、心、く、大、隈、施  
子、白、日、の、執、七、の、思、ひ、出、を、筆、葉、紙、一、巻、の、に、七  
成、り、お、山、秋、浦、其、法、書、物、居、此、地、と、余、の  
寄、物、に、付、お、回、考、の、字、を、六、を、撮、り、に、寄、る、所  
未、の、三、時、と、し、日、生、命、存、陰、今、社、内、の、永



聖徳太子の文の協会の例合をいふも来人日本基  
昔は臨海を名を持てアキスリング場士  
の米人の親も日本人に就ての語法を教く  
此人日本に在ること三十二年 歸る邦許に然  
し且つ之を日本を現解す

十七日

此、増田義一に投簡、早稲田学都、原行を  
投す、平田登美と云ふ名持物去り、誠也  
山田信文といふ名、昆田未之入、功物と

横原表

贈る旗の佐子と云ふ来出、様忠一と云ふ  
寺和田氏と云津田仙の脈係を答へ来出、  
五十島旅のとも白糸の醬油を樽に来十  
一時美濃の部と到り、陸列の渡又軒巻  
寺画美術品を一送し、給付に飯し文の巻  
を訪ふと物く、新紙と筆す

十八日

日

此、相来の文書に日下に投すへき津田仙の思  
出を綴す、和田若吉と云来出、回原合の河



高橋本坊井台の令に余の海濱をよみ、  
久松隆とて可功、大林一之、同伴、午後七津田  
の思出を書き、續け二十頁成す。

十九日

昨今朝六時止、酒客あり、朝未估之間、  
思出と筆紙して成る、長筆、信片影の一稿也、市  
島塾の中洋、其稿、大隈、八十五年、史三冊、  
付、中本邦、物、  
川原、一冊、度り、来、  
文、業、  
も、  
東、  
信、  
二十

棟原製

枚、  
和、  
投、  
午、  
村、  
山、  
地、  
未、  
簡、

二十日

昨、  
博、  
田、  
義、  
未、  
武、  
田、  
尾、  
吉、  
子、  
振、  
十、  
時、  
出、  
社、  
社、  
員、  
の、  
資、  
金、  
を、  
其、  
の、  
久、  
保、  
作、  
中、  
其、  
の、  
記、  
念、  
冊、  
子、  
を、  
其、  
の、  
記、  
念、  
人、  
形、  
と、  
贈、  
り、  
合、  
社、  
の、  
資、  
金、  
共、  
一、  
千、  
四、  
百、  
五、  
十、  
圓、  
入、  
手、  
山、  
下、  
三、  
山、  
陽、  
吉、  
商、  
持、  
主、  
午、  
後、  
文、  
行、  
を、  
珠、  
環、  
閣、  
と、  
贈、  
り、  
一、  
二、  
の、  
回、  
者、  
を、  
贈、  
り、  
文、  
の、  
巻、  
を、  
四、  
十、  
山



二十一日

市相末旅帳を算す、山田福吉、坂上弘  
茂、来り注射を施す例のこと、散策物を  
贈い中央大テレーシオン公を、酒飲し、四書後集し  
て森田草平平の随筆と讀む、和田萬吉よ  
り来書、内子歌多の伝座の観劇にあり

二十二日

榎原製

昨、大江乙月次、河井忠俊と来出、正午より  
細雨あり、例に雑誌を讀み時を移す、京  
都便利堂より複製本法華經半字原  
延二年三月書寫一函を贈り来り

二十二日

雨相末旅帳を算す、野花、河内より傳入の  
老牛山、幼派のつき返却、中山、信房ら大言  
海田才二書出ぬ、つき一部寄あて来  
る、龜山書、三天宮方、五の菊の大物











たふ。山田は此の功徳を本配本、既に巧藝  
社より向四某来揚、難ねと書く。一時を後す。村  
田金、此物死去。このとき品川の私定、の生あり。臨  
み、帰途、塔谷の志田、に列り、高田前、在後、後  
のり、見、口、後の在後、一可、願、言、今、を、信、す、林、葵、未  
夫、と、来、書、り、坂、上、達、と、来、信、

二十八日

時、朝来、旅、婦、を、著、す、余、の、寄、り、行、を、ぬ、ぬ  
り、山、某、業、と、口、本、指、到、日、本、回、者、彼、協、会、今、も

来、蝶、馬、中、雄、心、と、来、書、り、ま、田、能、今、を、携、  
帶、す、心、き、い、ん、千、キ、文、書、三、十、三、段、拾、出、村、山、物  
に、即、ち、梅、林、葵、未、夫、と、書、ふ、山、形、の、海、を、徳、  
夫、ら、と、い、い、サ、ン、ボ、一、函、列、来、り、四、海、合、の、諸、  
又、い、ん、千、キ、文、書、と、陳、列、し、て、其、人、説、の、を、  
う、り、夜、来、り、

二十九日

兩、初、来、旅、婦、を、著、す、大、江、乙、亥、つ、と、来、書、  
余、の、寄、り、行、を、ぬ、ぬ、り、山、某、業、と、口、本、指、到、日、本、回、者、彼、協、会、今、も



徳大寺に函乙大隈家と七月廿日金子刀自  
廿十日祭うらき来乙、京都の支那義則と  
女子の日本法本十冊を寄る来乙、中央公論社  
の編輯森田圭雄も功、日社徳徳の為り  
早稲田大学の考し話の定るものと清くして  
十一時の演劇場物館に利り、四劇向上会  
の役員会と飾出、早つても及後の演劇品を一  
読してゆくと六時中央公論社の定る会に抗  
え早稲田の日入る數十名とせ、二年東京演  
劇、日社進退の演劇会全集出版二つと

榎原製

後様も申のる意味も此の如き事

三十日

時、芝居団古館多、四分劇二と、  
道進、小説下巻と示せん一書と裁と  
返す、頼母木桂木四五山陽の傷と指の帯  
余の徳定を清く、田村在二印、  
原始文化集英を贈る、改上紙巻、  
射も多く、  
行旅金二万圓出す、夕刻光を付与、



二教来州を以て酒好しと傳ふ

七月

一日

時、初来中央公論の爲の田早稲田の田南時代  
を著し心し六七枚成り傳へて文行を乞ひ訪ひ二  
三の回方とゆてゆつ、三十四冊入、午後七時  
りよを宿と心り又之六枚成り三村清三印  
素因石譜のつき来宿

稗原製

二日

日

時、初来志せり、中央公論を授すへき早稲田  
の田南時代を著きつ、け漸やく脱稿す、  
上より家族に種痘をなす、三村清三印  
同す、午後陸海を著す

三日

雨初来要行を一校も中央公論に寄す、  
小林政助の書、亀山の可亭の書、  
高橋一来、林奈未夫の書、出帆丸の



同方と疑ひ、ステーションホテんと致し七物くら、物書  
大隈家別部（紙入）と熊子夫人遺物とて此處の  
批類（花巻）并に之、猫のうけ額絵巻現  
具を返くる、出段部とて山刊二冊記本、臥して  
三田村の江戸の白浪を讀み又刻と列す。

四日

時、大隈家へ函をもち、郷人の囑に依り、巻  
徳と兼す、九時の信印刷分紙と列り、三時  
し及此とて要求の値川問題も内取す、兩

榎原製

ボウく、（紙入）、中津佐助の信子教習、（紙入）  
毫、中央空冷、寄せる、稿を再校正して、寄  
送、閑、兼、とて江戸の白浪を讀み、又、教の  
注家録の校正稿を一枚、高山信政本とて十  
一日、東京別坊、招待を交へ、大隈家とて、心の  
挨拶、及物を返り来す。

五日

時、旅本料、一稿を寄す、十時出、函物を返  
ると、午後一時、大隈宅へ到り、大隈は  
子、五十日、祭、臨み、礼拝、し、物くら、旅本を



す、頼母木と山湯・暢二鎮定を、需めよ。國  
釀今くし来書

二日

時、朝来旅船を乗す。舟、木住(海寺田社)と  
り、其の偏る原の四河津、本又余の船業中  
塔の二層の標記見し。こしを、需め来り、流書と  
かき、武田尾去来記、台湾市極、物を郵送  
す。田中伝去来記、田中克、頼母と訪へし。よと  
の流示と多し。中央の論の藤田、すも、余の

投石、好めし。道の、すもを、八の、あし、粉し、くも  
き、くんと、の、伝、記、あり、篠田鎮定、し、し、未、問  
十一時、此地、宿、あり、午後、中央、公論社、の、業、形  
五枚、考、添、く、し、投、函、又、利、紅、と、あ、候、の、睦、合、と、臨  
去、高、田、松、平、伯、増、田、凌、と、し、と、飲、む、夜、来、快  
雨、列、日

七日

舟、船、あり、船、船、と、着、す、天、守、方、臺、の、十二、雲  
根、田、船、を、船、山、十一、時、出、遊、一、二、物、を、船、心



給仕合中ニ酒飲して物も後臥す、今度天朝  
もこの途程系、小冊を寄つて来る、雷成り驟雨  
到る。

八日

晴、朝来籠籠と暮す、早大と運動場、  
二軍中の夜間照灯の後、備出来らる、十日  
午後六時開場式と存じ、夜間の野球  
試合を為す、あつた、予の寄附を  
め、本州十二部、頼丹木の囀る、

横原製

し、山陽方面の一面に赴き、杉本を長一、  
血脈守にゆき、奥村路を、藤野口、英世、  
と、山崎も、山中、芝野、伯と、あつた、  
？外出の途程、他口の再訪を、訪して、  
血脈と、海を、まゐり、小井、政助、仲米、つき、宗  
家、も、其の途程、あつた、を、決え、し、高伯と、  
こ、招く、丹、黒、兄弟、の、者、つき、来、梅、午後、快  
白一、

九日



時、相来旅帳と兼す、本邸に吳世傳と讀み時  
を移す、十時、三教集文行堂を訪りて大和國  
建樹の稿本歌云年表、神代年表を  
得て、以て月巻に録し、七時、五時、家安を  
訪ふ、石田米の、亦政助の、送ぬの言あり、列す。

十日

日

時、朝来、法書、龜山、馬り、油屋、公書、梅の、此  
匣を、河、野、評、し、田、村、在、二、中、一、集、り、旅、帳、行、子、が  
使、使、の、大、久、保、公、傳、返、す、雅、歌、と、兼、す、中

棟原製

央、公、論、の、字、の、文、の、校、正、指、り、印、刷、令、此、り、列  
す、所、得、税、の、徴、集、も、未、の、於、見、社、轉、の、政、未  
大、陸、湖、泥、と、耽、讀、す

十一日

時、相来旅帳と兼す、中央公論の字あり、  
と校正す、山田不二、其、子、の、徴、集、も、未、の、於、見、社、  
轉、の、政、未、大、陸、湖、泥、と、耽、讀、す、  
丹、美、原、平、松、井、郡、次、の、  
氏、名、刺、を、此、の、十、時、日、法、印、刷、令、此、の、  
重、役、令、此、の、滿、出、内、子、を、富、中、山、の、相、待、の、



馬車割坊に控ける又樂割又物に行く  
石塚三郎に托し高松坂賣劍の押是  
出来、実業に日本の群像片断に朝吹英二  
と考へんとし其係を談ち、四時半富士會館  
入り同方御場合の理子合に歸り合合  
後切書

十二日

昨、今朝九時田中走敷伯を吉山に訪見一  
時引話して歸り、永井拓おるを廿一日柳

棟原製

橋柳走敷伯に控ふる廿三日、此所お控  
友合に臨席と罷り、予の字の好をねの  
り実業に心本に振利朝吹英二の片影  
を十枚ぬき、未だ半心と云ふを傳へて已む、  
弟、微痛と感し睡気氣を催す、此夜所て  
り体温を測り、三十七度四分あり、夜上もおき治  
療と云ふ、

十三日

昨、今朝体温三十七度七分あり、此所の法科



春一々未だ金の地蔵中々松の朽敗を其  
の海軍の中孝教御書に收めしことを雷田未  
の、新潮社も耐物利未田村在二午、杉山壽  
茶男の七ヶへう(北海道)同集一候を始り  
未久、安田重三午未立人死去(代人を弔礼  
の老、午後故上診察に未の熱のしく降る、林  
登木夫に商しぬり、吳福亭の今欠席を報る、  
去古代回すまの十由世不、此の江口基成未、  
夜に入り無事

十四日

相、今朝病を癒し朝未実業口を此く扱  
才へき、原船を筆心前の公を今せも廿五枚  
午後郵、書替方有白花、信札の狂七記  
六冊別達、十八日午後東京今録、新江北  
野間船、以河魁、つぎ、り、り、ぬ、り、り、  
市長考、相、る、回、考、協、合、を、来  
書、を、次、回、考、録、場、今、重、任、記、事、重、任、を  
會、招、く、今、考、病、為、り、欠、席、



十五日

昨、松尾松翁の訃報の出版部受う余の隠退  
ニおし、紀念の真善秀山の花散を喜ぶ。其の  
お川殿一り、とてハシラレトを定めてある。九物  
電氣の太田屋重工中、とて、海島列のボク江成一  
身流、今朝、下廊六七回午後夜八に臥し狂  
言記を讀む。二る、田原身川生す、又三身  
身、十山老す、日内印刷分地、の流草、流  
印刷成り、稿別、

榎原製

十五日

日

小雨、長井越心の訃報、稿す、先を伴ふを、松尾に相  
と贈心、又の、松翁を、漁り、風月堂に、叙し、七  
物、と、三、三、田、又、り、若く、挿入、絵、紙、を、著、す  
松、心、を、讀、み、

十七日

昨、森脇美村、英、文、大、日、本、力、三、部、別、刊  
二つ、き、来、流、村、山、秋、浦、山、陽、の、書、の、幅、と、挿、帯  
繪、巻、と、讀、み、不、現、松、崎、の、星、正、清、心、より



未書、狂言記を讀む、品目も田原也、是のりにつきて  
る目録より、午後文行堂と記ありて、中古戲場  
説の原本と稱ふ、此書並に十種にぬめり  
とも著者を採て、此書より種彦の海鏡  
あり著者を詳かすや、狂言と筆す、宙  
裏き雨を傳へ來り、終り、雨よりやむ

十八日

晴、朝未の業、この本、空まきを好む、  
徳富、慈峰、市原、昌三、寺深、葉一、おと、未

榎原製

書、富、女、富、三、即、子、功、道、敏、四、藤、今、に、松  
て、字、一、つ、河、人、并、に、家、を、在、る、陣、列、の、方  
と、い、と、物、を、一、書、物、度、理、化、と、柳、田、四、男、の  
退、後、去、一、歴、と、書、の、七、未、の、午、後、教、業、由、未  
未、原、行、と、い、ふ、一、中、時、永、井、拓、也、と、記、す、の、柳、橋  
柳、花、未、年、の、飲、も、一、主、定、新、者、旅、院、副、湯、古、松  
手、付、と、書、未、年、の、維、持、及、一、日、松、と、記、す、

十九日

晴、雨、大、り、も、未、前、書、物、致、味、編、輯、の、元







云々甲未の午後家急の字本日ぬと心  
と夜之時永井振おと振えん松永的貴族院  
副議長と云々を祝すも夕方日人そまの作  
持多と云々柳橋の柳之亭と別りぬ  
徳永士内蒙古芸術探検あり出た(まき)と  
の振ふと云々も並ぬ今夜燈火の節制を  
みに行衣敷擬防靴を試す市内所と伝り  
里に書誌の心と未也

二十一日

標原製

時原あまの西川大治印松下政花  
柄井清史中一河す、武田量四ら  
と大隈春く海ををふ、松井三夫の  
庄司成永片山飛来振、松永も兼す、午時神  
楽の物と好む田原を、飯す、の及りの柏崎  
校舎の詰まんとも、夜汽車の寝台を  
くはと云々上機後の寝台を空ひも云々  
日柏崎の川とすことし、服部嘉香よ  
川米岡伊勢産五色の蒸麴と傳り来り、和  
田純と雪流と交り、



二十三日

時服部妻の御内録述に海を去る  
朝未家符の古文書目録を以て長岡大  
の初長岡野着を報す取来初生二  
しゆつ午時懸雨あり雷鳴の音は(家老)日  
録を以て晩午後二時同睡既十時三十五分上  
候去玉所の寝台に入つ保く杉井却次郎の市  
長今し車中麦酒を飲け十二時寝に就

二十三日

日

榎原製

時朝五時止まらば着松井七下平、濱方り  
申、まゝやゝか懸一時河、柏崎行の洗車、後  
一八時柏崎着天京、後九時小井行呂杉森  
二教授到着、校友修り来梅、黒岡清策  
を招致、午後一時二教授柏崎船の橋上、松  
七長崎より海へ舟渡をり、九田島下  
書に招かん其の所着の書意を親時と書  
す、此人の所着の記述也四時(龍)七派  
の如池に到り、其境内の日柳並一名生田島の  
墓を拜し、五時内都梅に到り、校舎舎の



今議席上予より後述の近況を報す。近況  
と云ふは、終つて安んずるに移す。今更なるもの約百廿  
五軒ありて一行此處を去り二三櫛別館  
ニ別り更なる飲山内森飲塚宇尾地名  
星寺の序の授交の予等も亦  
は、近へて一今を期かんこ一予等の路考  
を求む流して旅舎に宿り十一時就寝  
今日の湯所九十三分ニ達す

二十四日

時、五時起床、里の正内果の爲め陣立、亦其傳  
に及して宿をへと振る、八時四十五分新居向付出  
発、一斤の家守森松井松木部法高橋等と曰車  
十二時二十五分着松井宅と立寄り一行松井松反  
と其松井の事、務所ニ振動、四番久一  
に鳴と應し武山畫一無り幅と題詞して  
小包に包み、午後篠田宿に一行三人款帳  
を括及宿り、日次宿高森庫中らりも路を  
十もつ、宿あり、長末内より一行自動車  
のドラッグもつ、安和港地帯と見え、東



京電が電報局と被る、二時より三時形  
事に行けり、臨時被る今、臨出、被る  
軍一各、被る人、八田村、今、今、  
席上、余、一場の演説を為す、九時、二十  
分、辭し、七上、被る、被る、余、余、  
く、車中、小林、杉、森、と、古、古、古、古、  
時、臥、被る、被る、人、高、崎、  
軒、升、被る、向、山、余、余、  
能、ら、す、北、行、從、來、往、被る、  
と、是、也

二十八日

時、二時、十五分、上、向、山、被る、  
の、被る、被る、今、今、今、今、  
馬、被る、被る、被る、被る、  
出、被る、被る、被る、被る、  
後、午、睡、被る、被る、被る、  
終、日、被る、被る、被る、

二十九日

時、朝、來、家、書、目、被る、被る、  
注、射、被る、被る、被る、被る、



本三指利、因大らりし未書、山田信也、其後復  
製本二冊配本、今井一平、其後、学報社と  
海金、ろ、三、中、白、領、あ、ま、丸、田、あ、ま、一、つ、と、清  
と、高、あ、ま、ま、る、宇、金、中、信、と、未、出、三、ろ  
五、十、日、也、月、末、家、用、の、子、に、交、付、文、行、わ、く  
書、物、凡、五、十、日、歸、入、午、後、降、而、あ、ま、一、

二十七日

相小丸、丸田方一、今、因、壽、磨、と、尚、す、新  
報、と、筆、一、時、と、移、す、御、回、三、回、回、忘、今、と、

榎原製

先、河、墓、域、原、石、柵、以、菜、の、報、先、之、利、未  
本、林、陽、ま、の、村、有、而、と、り、の、文、の、協、合、體、若  
二、つ、ま、延、令、の、報、と、す、く、新、ろ、あ、ま、文、誌、と  
雲、丹、と、移、す、未、る、春、陽、堂、と、寺、南、吳、日、外  
雨、中、取、菜、高、島、屋、の、海、中、信、説、合、を  
兄、む、谷、仙、月、を、と、領、と、信、と、雨、海、り、つ、  
く、危、村、初、り、し、生、る、也、あ、ま、一、森、潤、三、中、と、し  
余、が、表、題、と、署、し、る、也、若、紅、糸、山、文、庫  
と、有、物、奉、行、の、一、書、と、寄、り、て、ま、ま、一、美、堂、未、果  
社、群、像、片、歌、あ、ま、一、立、用、投、郵、あ、ま、一



ニ海志を以てす、モザルニ日本社と云ふ余の投稿を  
水の来り、加賀書と云ふ、と云ふ書物も亦  
七十年の家名印を以て贈る、云々書と云ふ日本  
社と云ふ名料、其十回所来、真の持たる、  
校南

二十八日

此朝の夜、多摩川に於て、  
未の、金極、健増、田七、中、と未、同、原、あ、と、  
何、か、と、仁、多、花、一、本、の、山、湯、書、同、の、鑑

榎原製

定を以て、中夜、モザルニ日本社の為、  
筆、笑、の、一、本、と、あ、し、と、云、の、す、中、中、鉄  
太郎、と、浄念寺、計算、の、報、生、書、を、云、の、也、未  
、と、未、の、し、日本、の、局、の、十、時、出、流、東、島、野、  
し、と、切、く、中、川、源、造、建、碑、に、就、き、馬、田、の、有、之  
横、田、孫、法、中、長、谷、川、平、助、来、稿、中、央、公、論  
社、と、云、稿、料、百、田、利、夫、芝、田、の、大、久、保、  
リ、紫、微、を、寄、と、云、の、出、版、部、と、云、の、近、刊、一、配、本

二十九日



成川本甚く其後、シカゴ大島山内協士より来信、  
報と兼す、午後出遊先子の以て其書の方紙  
の甘玉と題の價十五円也、又の書と功の書  
抄代三十日拂入、昨日の書又の今に臨  
人の海濱より其書あり、就き、海濱の  
要領と兼す、其書と聞つて時を移す、

三十日

日

昨朝来遊、其書を兼す、理髪、飯塚知信より  
来書、内原久一、二所す、十一時雷雨あり

積原製

三時半、安田美江の五の書法、人の臨む、其書  
席者、博く之を人、其書、四書あり、就て聊く  
説く所あり、此書、其後、評去

三十一日

昨、亀山書下三、九、五、四、書、其後、抄、更く其書  
海冊の十書、花位、四、一、紙と指す、文行書、  
益田、過、不、許、幅、亀、井、南、冥、書、好、三、四、書、  
と、婚、山、二十、日、林、海、山、田、書、其、後、云、の、書、  
利、の、外、出、中、今、関、壽、廣、了、其、功、午後、此



しとる風随筆と後記

〇八月

一日

朝未始秋を来す今閑壽慶未だのつき  
回考書意を述べての観時を移す山田殿  
城造欲に帛状を乞ふし香典十月舞送山  
田通支出御郡の女子孫本出殿成りたるを  
報して去る帛状の御書の家を午後入札

榎原製

田原行く書問生去るに志望を托す  
以て物と嫁の願ふ一途高田のり記  
未間相崎の里に泊りし生田萬吉をぬの  
以て五枚を寄る也

二日

朝未始秋を来す今閑壽慶未だのつき  
香換のつき来出、田村文のむ院のつき  
田下政次と未間十時を待たせし出  
湖白木居の防室長次郎と見え長兵衛に



段七何く、千葉河内給ひ多し、概路可也  
このきりも書、内海久一印も未書、時花  
給ひも、千田借入、内丸の田也、才一紙  
行く勢けへ、雑法を讀み時を致す、後万  
中津馬治り未亡人未、夜未あり、田村三紙  
行判、二十田おふ文三に日額二十田海す

三日

雨、春城漫録の記事一を天捨し、ガツツ、ハハ、社々具  
ふ、隨筆の底本を伝、花月浅大と稱す、  
血腸守、いゆの家、こゝ運社、きん、各校即取

棟原製

後福時、赤米未揚、や、英世傳の批評、を  
所、あ、る、三、る、二、五、月、所、得、鏡、納、付、湯、電  
治、料、廿、四、田、五、十、紙、入、由、子、二、文、付、午、後、文、行、を  
二、赴、き、岩、崎、陸、六、十、の、傳、を、天、浦、へ、ゆ、く、  
赤、米、五、石、の、差、後、茶、家、次、印、の、傳、を、讀、む、  
群、像、片、は、能、く、岩、崎、の、書、あ、ん、用、意、也、

四日

雨、朝、未、泡、筆、の、原、稿、を、敷、山、理、す、  
衣、司、淺、  
あ、く、隨、筆、の、原、稿、を、交、付、す、  
阪、上、弘



荷を江射と受く初回純来迄午後散果  
関太印と未信、隨筆下の原稿を心の

五日

明、朝来群像片影が六つ山原迄の跡たらしを業  
し半分成る。文行をを流しと免因の集の合  
心酒のワクリと輝い古酒に志を託す  
書後隨筆下の稿を整理し七時を移す  
高  
四の横田島江へ去りみ何す  
未書

穂原製

六日

快雨一過、朝来群像片影を業作す、河  
瀬一馬身泊、随筆の後田原迄三列の午飯と  
共うしてあふ、午後隨筆下の稿を整理す、  
阪口献をこむ状をかす、驟雨をきりに去  
未、

七日

時、驟雨、龜山書下三、書代十五田掛満  
山原が筆の詩稿を持来、朝来書送る



今、これより余か前日の座談速記を校訂  
す、神郡叙三々々未信、ピヤノの納律河来り、  
出版物を購ふ、何書後亦法話草記を校  
訂加除く漸やく成る川漱一馬に投郵、峠  
山に著法草、行り右の蓮と將談、根本有尚  
と未簡

八日

昨、相来群像片影、岩山を著し、七一編成、  
森脇美樹、身泊、流、運、登山中の、流、長、州

二、峠の、橋士の日連と讀む、三時、傳人、七、光、を、作  
い、銀、堂、を、漫、歩、し、七、物、し、二、里、田、法、果、し、生  
田、為、房、を、載、て、し、三、夕、紙、教、教、を、す、り、七、未  
り、

九日

昨、も、山、防、空、演習、を、試、み、る、あり、也、ゆ、り、も、ゆ、り  
日、も、河、の、り、区、越、の、関、東、方、南、を、入、八、将  
軍、に、し、し、と、サ、イ、レ、ン、志、き、り、の、鳴、り、敵、捕  
の、誌、を、外、を、報、す、朝、来、放、送、の、刻、々、の、歌











恐る皆余が手ぬらぬ。

十日

昨夜ラジオを聴かざるに就て此の如く状況を知り  
ずが此の如く、就て捨す。機火及制機  
ろく行いんと報せらる。雲霧の軍多攻撃  
機あり。防衛軍の爆音をやききり  
機体を恐る。しが出来ず、射撃に困難  
を感し、機材のあつたが、此の端を  
敵機に  
き届き敵機の終日攻撃をいかに  
し

棟原製

法人とある。今朝一時半頃、  
爆音を聴き、  
評ハ枚葉し終り、東京に送れし  
福島の来、投す。放送ハ報す、敵機を  
橋を飛来、日本橋市街に  
機を放し、  
く等々、  
市中の状況を、  
現況を射撃を擬して



セナシト見ル。日本橋市街烟幕下隊々とし  
前方より我軍の上空に敵機徘徊、機銃  
銃を放射の聲も轟々と響き、此處に敵  
多く群がる。午後三時、春陽巻の  
本陣に居るを定より、三時止と驥馬  
一過、昂り山田原へ戻り、三時サイレン又響  
き、敵機の来勢を察し、銃を機銃の  
聲を聴く日蓮隊も後より陽に到り、近代  
四隊の六人乗る日本砲も亦好戦、十四  
日未、空中飛敵膏つく

十一日

昨夜ハ敵軍ハ勇敢なる砲撃を行ひ、帝都ハ空  
此處の五隊もさういふおちり打撃を食ひ、  
昭隊の昭射高射砲の砲撃を浴び、  
いさゝか、昭生格段を爆撃、湯橋附近一  
帯を焼き、東京驛に爆撃をあひせ、愛宕  
砲臺の砲を爆撃、むり、夜二時サイレン  
二目、是れにて報復のラジオが状況も聴く  
河断なき機銃銃聲、耳と衝き敵機の  
隊を沈む、湯橋附近、火火を起す、寺







速達便をたす。此段部と新刊の女子讀本  
十冊と云ふの事。雜紙を筆す、三張の印及  
凡俗展覧会も見る。

十三日

此朝未だ旅帳を筆す。信じてぬ米九石  
儿に以て刊書白樺の巻品を辨公。祢乐  
及四層巻。酒飯して忙し。表を念、托  
し、二巻の者何れも甚成る。里の宮侍  
果生田茶の事。歴を載せり。あまの敷  
美と定りて来り。臥して谷崎潤一郎の書

春物修を済む。先反人の吟。里郡西爪と  
おりに干物を貯り来り。金井延橋士の詠刺る。

十四日

此朝来り。筆下の原野を散心。理才、川瀬  
一馬と来り。阪上松巻。徳の注射子  
受く。十時頃。驛角到る。昭和也。方の松岸  
秀次。書物の巻。會。押書。をもとめ来  
り。春物。筆。十四日。利。氏。牛。坂  
先と。利。生。三。刺。り。杉。尾。之。克。用。の。机。を。贈。り。



又迄筆の原形を整理す。軍記法也  
多道船相崎に於て一行教授と詔候に當り  
爲不照を送り来り。夜十二時豪雨一過

十五日

朝来共此を以て迄筆の原形を終む。云司  
淡路の印刷に付し了る原形を整理し来り。余の  
前日者きり六十数件と除きを以て尚ほ六七  
百頁の冊子とする事と依りて尚ほ多く削  
除する事決す。數の追加の原形、皆し了

棟原義

が利彦追加し得たる状態より、午後更々  
春法令を出ぬの迄筆下に入るべき材料の目  
録を仕る。寺山元重より書冊を終り来り。  
今関天彭より浦夏の時を以りて来り。

十七日の

拂曉豪雨一過。相崎里つら法也に技師  
相来臨筆下の原形を終む。十一時金  
井延徳士の告め式に臨み、下答に廻り入り  
を以て一二の因方を繕ひ、昨日を以て飲上



ゆく。帰宅後読書と筆を以て随筆の行  
を終む。今宵二二と来書。

十七日

小雨。朝来造筆の原稿を整理す。数筆を  
ピル。本を解ひ、ゆき田原屋に飲す。書後  
その今くも是知る。夜秘を書き目と客を  
来り。午後七時筆の行を終む。

十八日

榎原製

時分相ある。思ひ立ち箱根迄。遠途を試み  
と光を伴めて九時家を別し。田原迄。汽車  
に乗り、口車に乗る。乗合自動車。一と函館の  
頂に達す。時正。一時とこく。箱根五テル  
を南し。休々木信。獨々全す。ホテルハ湖と  
あんともあまのあつし。山に熱海迄。自動車  
にて往來の便。開け。夕と少キ。回し。道  
戻り。熱海に回。リ。凡人と。二時二十五分  
乗合自動車。乗。此車道。今。社。用  
う。と。案。の。道。よ。し。三十分。ば。かり。志。キ。リ。ム



登り、四圍の風口集正佳、流石に奇地として  
涼味漲り、五十五分より熱海の驛と遠く  
自動車とを併せ、城内より道の長を以て  
ハ暫く時流して四時五十五分の汽車ありて  
由京、七時半家へ還り

十九日

朝、朝来遊園を翻設時を移す、奥 榎根 舟上  
温泉地と和田若木の道に到り、其、一五事  
件陸軍側被害十一名、八年禁錮の求刑あり

榎根

り、午後妙峰の日蓮を廣く、随筆の原行  
を修む人を側を半日庭園を掃か

二十日

日

朝、朝来遊園の稿を修む、榎木を一人来り  
池の回 榎 を修補す、庄司淡の来り遊園  
の打合を為す、十一時以驟雨あり、小山武  
夫より物を贈る者あり、休養港旅館未  
だ来訪、里子清心と柏崎 清 一東を寄る  
あり、石塚 清 あり、文三 清 あり



二十一日

時、朝来徳業の稿を修む。改、献吉湯河  
苑の稿を修む。東京夏訪、十一時放筆。紙座  
ニ物を焼ひ、味を食て、飯をもゆく。ゆき後、徳  
業の稿を修む。植木舟池の縁、修稿のため二人  
来。

二十二日

時、佐藤友石工門の訃を聴く。朝来徳業  
の稿を修む。毛句浅み、夏行の板敷、計  
を報じ、ある、園丁二人来。昂、田原をも之

植原製

ゆへ、川田治二の訃、午後及、友来、二人將  
を覺す。池の工、事、畢。

二十三日

時、實業ととも、社、校心の原心と郵  
送、川田治二死、云、つき、布物を覺す。朝来  
徳業の稿を修む。會津、ハ、一、来、書、午後  
七、池、業の稿を修む。昂、田原、く、ゆへ、

二十四日











馬より初任の報あり、文三年の二十日交  
付

二十九日

病、和田為光、玉井幸助とて来也、龜山兼  
三より和田若光二問下、水谷龍三、皆  
善代十四押、午後又逸業の務を終む  
書簡一卷表紙取付、義谷山波危島の報  
到。

三十日

病、ノートル法實施施行及器具意見なる家

榎原製

衣法の決意を既し其の意見を集めて冊子  
別表、初来逸業の務を終む、龍谷と兼  
三、午後散策、二三の物を購入し、和目表  
を、  
吉川弘文館より四史大回鑑  
首巻を云々、購入の意見、横尾文の  
書上り長久次より来也

三十一日

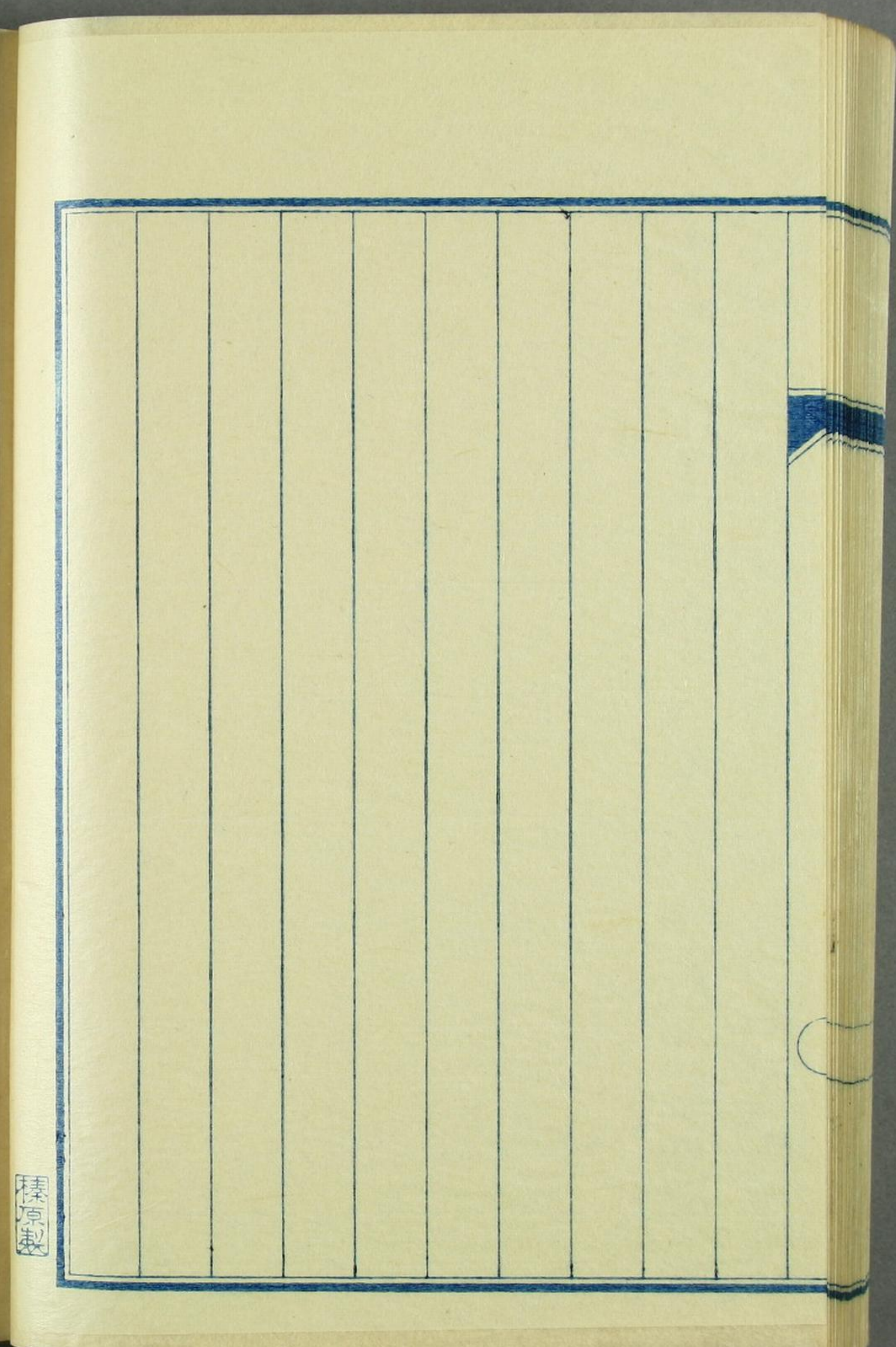
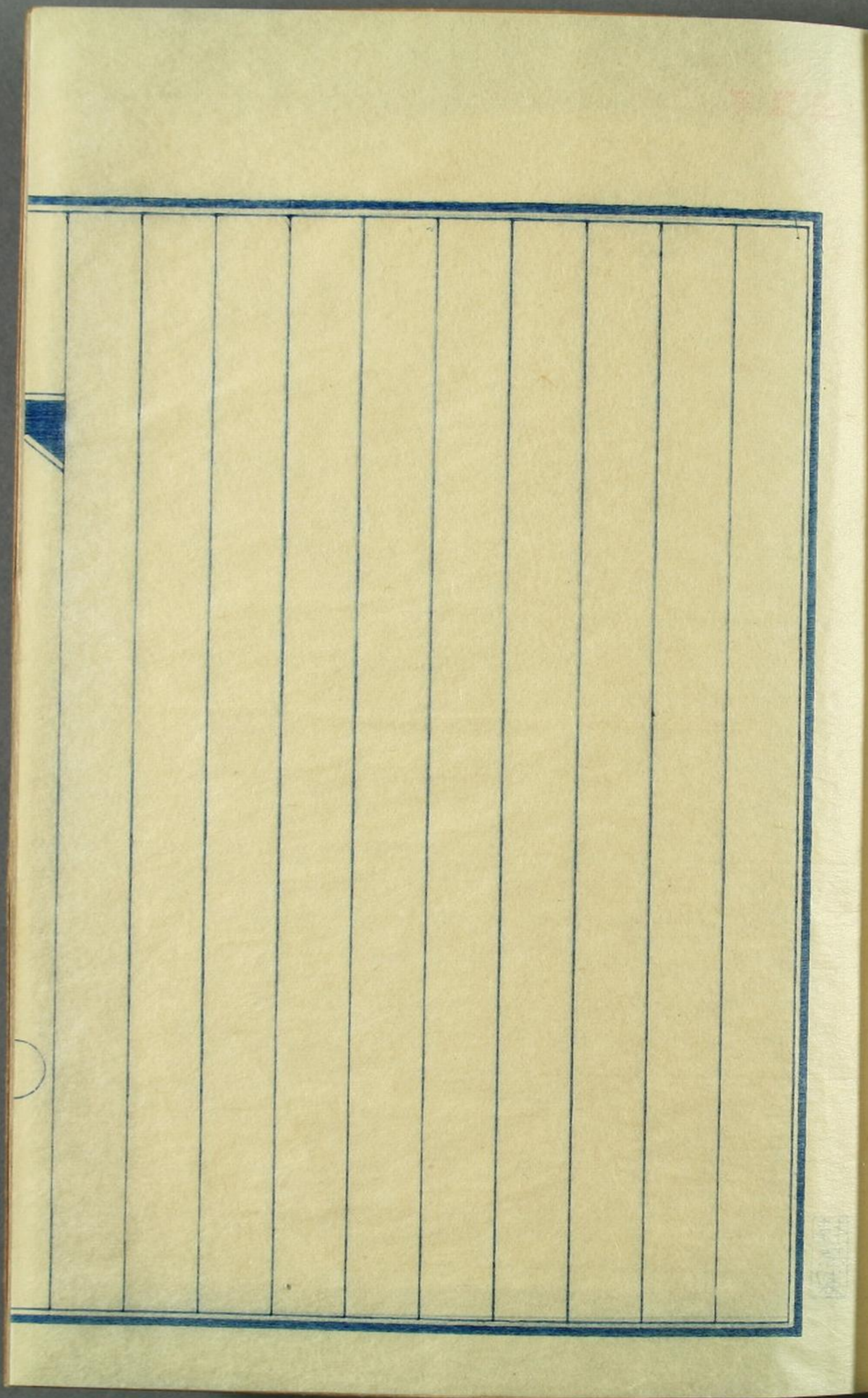
病、初来逸業の務を終む、上中喜永次  
来也、ピアノ調律、河村木末、午後姉崎坊



士の日蓮も漢文時を後す。印の回原も  
まゝにへる。かたがへし来也。其法は八月に  
く

榎原製





稗原製



田寛堂

廿七

棟原製



